

「ひとこと」から・・・(議員番号順)

1、白川 哲也

請願の文案をお送りいただきありがとうございました。まず大枠の内容について、現在の厳しい経済状況・財政状況を踏まえて、議員報酬を下げることにについては、市民の考え等も鑑み、検討すべき課題であると考えます。ですから、報酬審議会の開催を私としても早期に望みます。その中で、議員報酬が適正かどうか第三者の議論の中で結論付けて頂きたいと思います。ただ期末手当については報酬審議会の審議事項ではなく議員提出議案等で決定して行くもので、報酬審議会の開催を望む私たち党派との考えとは異なります。現在の経済状況・財政状況から考えて報酬を減らす議論をするということは、経済状況・財政状況がよくなれば、議員報酬を上げる議論になります。もし、報酬審議会が立ち上がらなければ、議員報酬を下げるだけの議論になってしまい、今後の議員活動にも支障をきたすと考えます。40万人都市での比較では町田市議会の月額報酬と期末手当を足した年俸は全国で最低水準です。議論に際しては、単に期末報酬のみを抜き出した議論ではなく、年俸で観る必要があると考えます。議員がその責務を全うせず、「議員報酬にあぐらをかいている」、「議員報酬が高すぎる」とのご意見もありますが、議員の仕事は眼に見える様々な会やイベントの参加だけでなく、市民の方の見えないところでは、政策立案や実地調査等を行っており、私たち議員は報酬以上の活動をしているつもりです。

しかし、このことを理解して頂いた上で、現在の情勢に沿って、議員報酬を下げる議論をすることは大いに賛成です。長い目で見れば、報酬審議会を開き、その都度報酬額を変えていく必要があると考えますが、まずは議論の場に乘せるためにも、今回の請願については賛成の立場に回りたいと考えます。

2、渡辺 巖太郎

町田市政を考える会・草の根の皆さまには益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は大変お世話になり誠にありがとうございます。またこのたびの請願に関してのご連絡が遅くなってしまい、申し訳御座いません。

会派内での調整が長引いてしまい、このようにお返事するのに時間がかかってしまった事をまずもってお詫びいたします。

本当に申し訳ありません。

2月28日夜より個人での行動が可能という方針になりましたので、早速私が思う事(議員報酬について)をお返事したいと思います。

私、渡辺巖太郎はお陰様をもちまして議員となり早一年が経ちまして、それまでとは大分違う一年だったと感じております。

議員としての一年を振り返りますに正直なところ、まともに一日も自宅にいた事はなく、日々、この生まれ育ち、お世話になった町田の議員にせっかくなれたのだから、と奮闘してまいりました。

御近所の方からは夜になっても電気がついてない、生活感が無いと町内会に問

い合わされてしまうくらいでした。

私は三人兄弟の長男ですが、幼少期は家庭の事情などで、毎晩私ども兄弟三人は近所の方々のご家庭のご厚意で夕食を頂いていたため、地域に育てられたとの意識が強く、大きくなってからは地域への恩返しとばかり地域活動をしてきたことが、その背景にあると思います。

一日もまともに家に居ず、休みを取らず、一年間邁進してきて感じることは、議員というのは本当に人によりけりだということです。

きちんと活動していれば、町田の議員報酬は決して高くないと思いました。

議員活動においては、100回を超える忘年会や新年会に参加するなど多くの場面で広く皆さまのご意見を賜ること、また郵送や電話を使い自らの活動を広めお知らせすることは大変意義のあるものであり、そこにかかる経費は非常に多いものです。税金、廃止される議員年金、党への寄付金、などで大きく引かれた手取り三十数万の中から、さらに、それらの出費が必要です。しかし、出費の多くを占める各種イベントへの参加費ですが、個人事業主のように経費としてあげることができません。一見高額に移る議員報酬の額面ですが、実態としては経費と報酬とが混在しているものなのだと、この一年で感じた次第です。

正直、出費の面を鑑みるに、サラリーマン時代の方が生活には余裕がありました。

党によっては印刷やポスティングを党がしてくれたり、大人数の組合をもっていたり、そのような意味での選挙活動をあまりしなくては良いケースをみると、大変羨ましく思っていました。

私は昼の弁当代の節約の為、自炊し弁当を持参することもしていますし、夏の数日間は土建屋さんでアルバイトもしています。

議員なんて誰がやっても大して変わらないという風潮の中で町田が大好きな議員としてきちんと良い仕事をして市民の皆さまに理解してもらいたいと思っています。

今度の私の一般質問で、議場では解りづらいかもしれませんが、上手くいけば、市民の税金である町田市の電気代の出費は年間数千万～数億引き下げられると強く確信しています。また、米軍との災害時の提携などは町田にとってプラスな事だと思って、パスポート握りしめ何度も基地に行き状況を調査しました。

よくある議員定数削減や議員報酬の削減という世論は十分理解していますし、議員活動に対する御理解を得る事はなかなか容易ではないと思いますが、皆様に理解して頂けるよう頑張っていきたいです。

議員報酬を下げるという一辺倒の議論ですと聞こえは良いですが、それによって今後、元々の富裕層や特定党員しか固定的に議員になれなくなるのでは？と時代の逆行を危惧致します。

富裕議員、中間議員、庶民議員といる中で、庶民議員がいるから幾多の対立や協調を経て新たな観点から新しいアイデアが生まれ、新しい町田市政になるのでは？とも思います。

よって、もっと皆さまにご理解を得るべく、この度の請願はもう一度議員報酬の観点から議員活動を見直し、議論するという意味で署名させていただきた

く思います。

時流的風潮として議員報酬が下がってしまうこと止む無しとなるのであれば、甘んじて受け止めますが、その事がこの町田市を前進させる事だとは考えていません。

前向きに取り組んでやることはまだまだ沢山ございますが、一番大切である皆さま町田市民との協調や相互理解のために、署名します。

稚拙な手紙を最後までお読み頂き有難うございます。
未筆ではありますが、皆さまの益々のご健康、御多幸、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

11、山下 てつや

所管の委員会となることが想定されるため、紹介議員にはなりません。請願の主旨を受け止め、しっかり議論致します。

13、市川 勝斗

いつもお世話になり有難うございます。また、この度は、請願文章を事前にお送り頂き有難うございます。

お送りいただきました請願文章について、まずは会派で議論をさせていただきました。本来ならば、政策集団の集まりである会派で統一した回答を差し上げるのが筋ではありますが、各議員個人で回答をさせていただきます。

町田市議会議員報酬における私の見解を述べさせていただきます。

仰るとおり、町田市議会の期末手当は多摩 26 市に比べると高く設定されております。しかし、議員報酬は期末手当のみで比較するのではなく、町田市と同等規模の自治体と年額全体で比較すべきであると考えます。

40 万人都市の議員報酬と町田市の議員報酬を比較した場合、町田市の議員報酬は決して高く設定されてなく、むしろ、最低基準に位置しております。議員年金が平成 23 年 6 月に廃止されることを鑑みると、議員の身分保障はより一層強くすべきであると考えます。議員の活動は年 4 回開催される本会議だけでなく、先進市への視察・年末年始をはじめとする意見交換会・研修勉強会への参加など市民に触れる場だけでなく、市民の見えないところでも活動しております。また、4 年間で次への選挙資金を蓄えなければいけません。家族を養いながら、政治活動を行い、次の選挙資金を蓄え、また、勇退後の生活設計を行うには現状でも非常に厳しいと考えます。

ただし、社会情勢の変化に伴い、議員報酬自体について議論することは必要であると考えます。そのためには、当事者同士で議論するのではなく、第三者機関として、報酬審議会を開催することは望ましいと考えます。

以上の考えと送付いただきました請願の趣旨を検討した結果、今回の請願には署名することはできません。

15、三遊亭 らん丈

町田市議会議員の期末手当に関しては情勢適応の原則に従って見直すべきだと考えています。

24、若林 章喜

付託がどこの委員会になるかわからないため。

26、渋谷 武巳

請願の文案をお送りいただき有難うございました。ご提案の内容について私の考え方、思いについてお答えいたします。先ず報酬審議会開催については勿論大賛成であります、私たち議員の報酬について社会情勢を考慮し第三者の公平な判断で定期的に審議していただきたいと思ひます、ただ期末手当については報酬審議会の審議事項ではないため報酬審議会の答申を受け、議員提出議案で決定して行くこととなります。現在の「5・2ヶ月」三多摩一高い期末手当は確かに問題があると思ひますが、年俸ベースでの比較で町田市議会議員の報酬は40万都市として日本で一番低いという事実もお伝えしたいと思ひます、こうした事から報酬審議会の一日も早い開催を望みます。勿論市民の方々が感じられている議員がその責務を全うせず「議員報酬にあぐらをかいている」「議員報酬が高すぎる」といった声も真摯に受け止めなければなりません、まじめに議員活動に取り組んでいる者にとっては決して潤沢な金額とはいえませんが、まじめに議員報酬の議論には優秀な人材が安心して、率先して、選挙に名乗りを上げられる環境創りも民主主義にとって大変重要なことと考えます、ちなみに報酬を下げすぎたイギリスの議会では生活保護を受け議員になったと言う本末転倒した事態までおき、現在のロンドン市議会では大学教授の平均年収30・000ポンドに対し市議会議員報酬を50・000ポンド迄引き上げたという事例もあります。このような問題点を総合的に考慮し議員報酬を決めていただきたいと思ひます、従いまして今回の「2004年6月8日の報酬審の結論を直ちに実行するよう強く求めます」と言う文章には紹介議員になる事は辞退させていただきます。但し御意見に対しては十分に議論していきたいと思ひます。

28、藤田 学

私は、“議員報酬、議員定数削減”という全体的視野、大きな視野からの改革が必要であると考え、自ら行動する予定です。

32、大西 宣也

担当する委員会の委員であること。

・民主・社民・ネット会派（7名）

会派として、紹介議員にはならないことになりました。